

宮崎大学医学部附属病院
専門研修プログラム
Specialized Training Program
2024



宮崎大学
UNIVERSITY OF MIYAZAKI

宮崎大学医学部附属病院
Faculty of Medicine, University of Miyazaki Hospital

宮崎大学医学部医療人育成課 卒後臨床研修係
〒889-1692 宮崎市清武町木原 5200
TEL : 0985-85-1864 FAX : 0985-85-0693
E-mail : senmoni@med.miyazaki-u.ac.jp



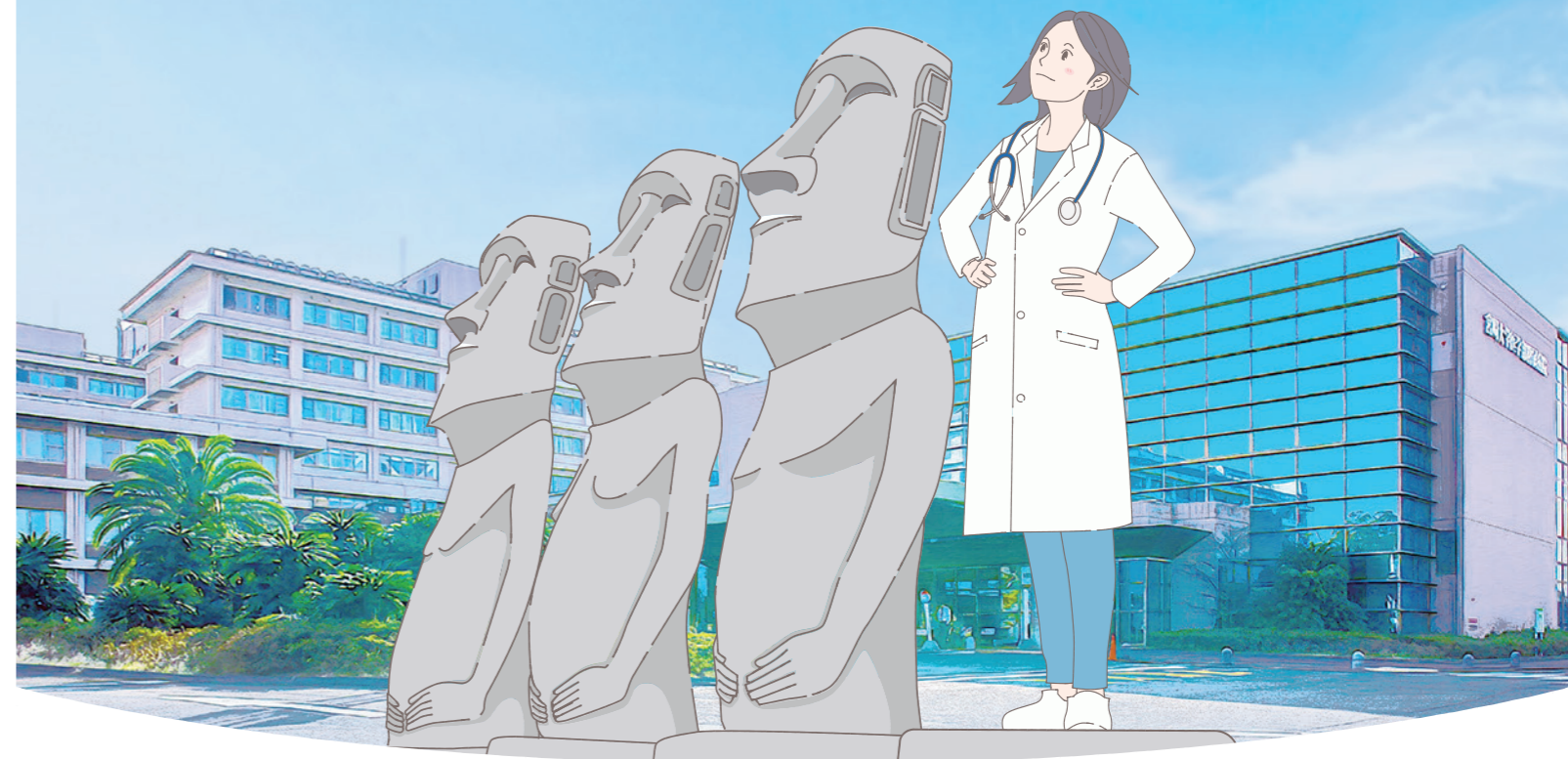
専門研修プログラム HP

[http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/
home/senmoni/](http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/senmoni/)

宮崎大学医学部附属病院専門研修プログラム 2024

2023年7月発行

発行 宮崎大学医学部附属病院 医療人育成推進センター
宮崎大学医学部医療人育成課 卒後臨床研修係
発行人 小松弘幸(医療人育成推進センター 副センター長)
制作 スパークジャパン株式会社



宮崎大学
UNIVERSITY OF MIYAZAKI



CONTENTS

- 01 挨拶 病院長・卒後臨床研修センター長
- 03 病院紹介
- 05 専門研修プログラム
合同説明会、病院見学のお知らせ
- 06 各領域の専門研修プログラム紹介
- 59 専攻医の処遇について／病院施設紹介
- 60 ワークライフバランス／アクセス



表紙絵「サンメッセ日南のモアイ像」

宮崎県日南海岸の小高い丘に、10体のモアイ像が存在しています。1992年に日本がチリのイースター島のモアイ像の修復に協力したお礼として、イースター島から正式な許可を得て、復刻建立されました。海沿いに並べられた7体は「アフ・アキビ」と呼ばれ、触ると運氣が上がるといわれています。

病院長挨拶

The future depends on what you do in the present



病院長 帖佐 悦男

専門医を目指す皆さん、宮崎大学医学部附属病院の専門研修プログラムへようこそ。本冊子では、各プログラムをそれぞれ見開き1枚で紹介しており、その内容は、研修到達目標、利点、アピールポイント、専門医取得までのロードマップ、プログラム責任者や指導医からのコメント、先輩専攻医の体験談などです。まずは全ての診療科にふれてください。新たに気になる診療科に出会えるかもしれません。興味のある診療科を含め気になることがあれば、私を含め各診療科の先生へ、何でも気軽に相談してください。コロナウイルス感染症は5類へ移行し、以前の日常生活を取り戻してきました。さあ、待ち望んでいた専門研修が始まります。専門医を目指す皆さんにもそれぞれの「希望」や「夢」があると思いますので、プログラムを十分活用し、キャリアを積み重ねステップアップすることで、理想の専門医を目指してください。その先にはサブスペシャリティを含め、より専門性の高い医師になる道が開かれています。それを実現するために、本院では臨床のみでなく研究や教育のチャンスもあることや、厳しさの中にも温かみのある「よき指導者」のもとで専門研修が受けられるようになっています。また、臨床で疑問に思ったことの基礎研究やトランスレーショナルリサーチも可能です。メディカルスタッフや学生教育にも一緒に参加す

ることで、自己研鑽にもつながります。「よき指導者」に加え、皆さんたちをサポートしてくれる素晴らしいメディカルスタッフも大勢います。私自身も良きメンターと出会えたことで、今の自分があります。きっと皆さんたちも当院のプログラムでかけがえのないメンターに会えると確信しています。

また、大学病院だからこそ診ることのできる稀有な疾患をはじめ、common diseasesを含めた様々な疾患の経験と共に真の地域医療を経験することができます。専攻医の皆さんたちを多方面からサポートする体制が整っています。他施設にない県、医師会、多くの関連施設と「All Miyazaki体制」が構築されており、医療関係者のみならず、患者さんからの若手医師である皆さんを厚遇したいという「気持ち」がひしひしと伝わってくる環境にあります。安心して専門研修に取り組んでください。

世界中の方々がCOVID-19に翻弄されてきましたが、特に基礎や臨床の両面で戦う献身的な医療従事者の姿が報道され、皆さんも様々な医療の分野で活躍したいと考えていると思います。直ぐに実現できることと経験を踏んでできることがあります。皆さんが一歩ずつ確実にステップアップすることで道が開けるようプログラムが準備されていますので、目標に向かって一緒に頑張りましょう。

卒後臨床研修センター長挨拶

宮崎から世界へ！
“オンリーワン”の専門医が育つ宮大専門研修プログラム



医療人育成推進センター 教授
卒後臨床研修センター長 小松 弘幸

宮崎大学医学部では、医師養成における『卒前・卒後一貫教育の充実』を目指しています。2015年には医療人育成推進センターが新設され、卒後臨床研修センターとともに医学部臨床実習から卒後臨床研修、そして専門プログラムまでを俯瞰できる体制を構築し、宮崎県全域の中核医療施設から地域の最前線で活躍する施設を網羅した、“All Miyazaki型”の医師養成フィールドを充実させてきました。その結果、現在では、宮崎大学医学部と連携している60以上の医学教育施設の約7割が、医学生と研修医、そして専攻医を同時に受け入れて下さっています。このような大学と中核病院、地域医療が密接に連携して多彩な研修フィールドを提供できる体制は宮崎大学の強みだと思いますし、宮崎大学出身者はもとより、宮崎県が策定した『キャリア形成プログラム』を選択する若手医師の方にとっても、安心して医師キャリアを積んでいただける環境だと思います。もちろん、臨床研修修了後に初めて宮崎で医師キャリアを開始する方にとっても、宮崎は穏やかな県民性もあって、専攻医として伸び伸びと医療に向き合っていただける快適な条件が揃っており、とても過ごしやすいと思いますよ！

宮崎大学医学部附属病院には基本19領域全ての専門プログラムおよび専門医機構認定サブスペシャリティ領域の研修が整備されています。各領域責任者の熱いメッセージ、宮崎大学ならではの達成目標やスケジュール、先輩医師の生の声をぜひご覧下さい！どの領域でも『宮崎の最後の砦』として、多彩な経験を持つ医師が連携しながら、診療のみならず、基礎・臨床研究や医療者育成に尽力しております。

本学では創設以来ペブチド研究を始めとする基礎研究が比較的盛んですが、最近では患者データに立脚した臨床研究も活発に行われています。特に宮崎は、同一患者さんを長期フォローアップしやすい利点を活かしたコホート研究に適した環境です。宮崎で専攻医として診療や研究スキルの基礎を修得しながら、自分の興味ある専門領域を発見し、そこを極めていくと、「××のことなら〇〇先生」といった“オンリーワン”の存在として同年代の医師より早く活躍しやすいのも特徴です。

ぜひこの宮崎で、国内あるいは世界を視野に“オンリーワン”の存在として輝いてみませんか！ 私たちは宮崎で学び活躍する専攻医を全力で支援・応援させていただきます！

病院紹介

診療、教育、研究を通して「社会に貢献する」地域のなかにある、地域のためにある、地域のための大学病院

特徴 1 All Miyazaki

宮崎大学医学部附属病院では、診療、教育、研究を通して「社会に貢献する」ことを理念として掲げています。宮崎大学医学部附属病院は、多くの診療科と中央診療施設等を中心に、県内唯一の特定機能病院として、また医育機関として、診療、教育、研究、さらに地域医療に貢献しています。また、宮崎県を始めとする自治体、医師会、大学病院の三者が一致協力して、All Miyazaki体制を築き、多くの分野にわたって医療提供体制を整備しています。各基本領域の専門研修プログラムにおいても県内の地域病院と連携し、県内全域をフィールドに、先端医療から地域医療まで経験することができます。



All Miyazakiは地域医療を担う医師育成に力を結集しています。

若手医師や医療人は「貴重な地域資源」です。その育成と確保は大学病院の果たすべき地域貢献であると考えています。All Miyazaki体制では臨床研修から専門研修まで一貫した県内研修、それぞれのキャリアプランに合わせて自由度の高いプログラムを構築し、人間性豊かな、かつ「宮崎愛」を持った医療人の育成を目指しています。

特徴 2 先進医療・高度医療機器・研究開発の充実

診療科名	先進医療名	承認年月日
脳神経外科	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	H20.6.1
眼科	ウイルスに起因する難治性の眼感染症患に対する迅速診断(PCR法)	R2.8.1
眼科	細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染症患に対する迅速診断(PCR法)	R2.8.1

内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ」の活用

宮崎大学医学部附属病院では、低侵襲手術を行うため、内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ」を使用し、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(泌尿器科)、胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(呼吸器外科)等を行っております。



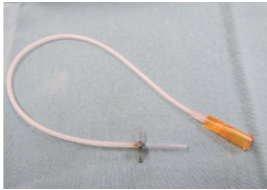
内視鏡手術支援ロボット「ダビンチ」



宮崎県の企業との共同開発

東九州メディカルバレー構想を基に宮崎県・大分県の東九州地域において産学官連携による研究開発の推進などに取り組み、医療の分野でアジアに貢献する地域を目指し、宮崎県の企業と共同開発しています。

診療科・センター	医療機器
歯科口腔外科	歯科口腔外科手術デバイス「HAND」
IVRセンター	軽量化放射線防護衣
総合周産期母子医療センター	頭皮静脈用翼状針
救命救急センター	ポータブル吸引源



頭皮静脈用翼状針

特徴 3 For MIYAZAKI 宮崎県民のための救急医療 救命救急センター

宮崎大学医学部附属病院救命救急センターでは「For MIYAZAKI」をスローガンに掲げ、宮崎県民のための救急医療の充実に取り組みながら、ドクターヘリやドクターカーによる病院前救急診療の研修にも力を注いでいます。

充実段階評価でS評価 救命救急センター

厚生労働省が行う救命救急センター充実段階評価で最高評価のS評価を受けました。救命救急センター充実段階評価は、全国の救命救急センターを対象に毎年実施しており、診療体制や患者受け入れ実績に基づいて点数化し(評価項目に対して)、施設の充実度を区分するものです。評価項目には「地域の重篤患者受け入れ数」、「行政・医師会などと連携した勉強会の開催」など地域の貢献度を評価する項目が盛り込まれています。県内の重症救急の患者さんの「最後の砦」として、そういった患者さんを積極的に受け入れると同時にいろんな教育機能、社会貢献などにも積極的に研究成果を大々的に発信できるようにしています。



ドクターヘリ



University of Miyazaki Hospital

医療安全と医師を支える スタッフ・サポートの体制を充実

検査結果・報告書の確認を忘れないための体制「NoERR(ノエラ)」

近年、画像診断結果の見落としが相次いでいる中、宮崎大学医学部附属病院では、検査結果の正確な伝達、情報共有の促進、検査結果の確実な確認を目指し、さらに検査結果が適切に患者に説明され、治療に反映されることを目的とするために診療情報共有伝達確認室NoERR(Notify Outcome of Examination and Remind Room)を設置しています。NoERRでは、検査結果の重要所見の分類(緊急度)、主治医への結果や報告書の通知、それらの結果や報告書の確認状況を把握し、確認されていない結果や報告書については主治医へリマインドする体制を構築し、本院の検査結果の見落とし防止・医療安全に努めています。

医師事務作業補助体制加算の最上位(15対1)を算定し、医師の負担軽減！

チーム医療の一員として医師事務作業補助者(DC:ドクターズクラーク)を配置し、医師の事務的業務の削減に取り組んでいます。DCのおかげで医師として患者さんのベッドサイドに行ったり、治療方針を考えたり

する時間も増え、医師が医師としての仕事に専念することができる環境をサポートするほか、患者さんに対してもきめ細やかなサービスを提供しています。

共通業務

- ① 診断書作成補助 (MEDI-Papyrus使用)
- ② 電子カルテの代入力と運用支援 (退院時サマリを含む)
- ③ 各種指導管理料の確認
- ④ DPC様式調査の確認
- ⑤ 病名登録サポート (病名登録システムの整理)
- ⑥ 診療情報のリマインド・アクション監査
- ⑦ 医師当直後業務管理・医師勤務管理

その他

- ① 入院患者対応業務
- ② 問い合わせに対するデータ確認
- ③ 各種調査に対するデータ入力、確認

院内の診療情報を個々の情報で終わらせるのではなく、**DC配置によって横断的に連携**を図ることが可能となる



働く医師を応援

宮大病院キャリア支援枠

宮崎大学では、医師を対象とした「宮大病院キャリア支援枠」を運用しています。この制度では、当直・オンコール免除で、勤務に当たっては診療科と調整しながら、利用者の希望に応じて柔軟な勤務形態を選ぶことができます。

制度を利用できる方 (性別は問いません)

- 子育てや介護のため、フルタイムで働くことが難しい
- しばらく職場を離れていたけれどそろそろ復職したい
- これからのためにもっと自分のスキルを高めたい
- はじめての宮崎で、医師として働くきっかけをつかみたい



利用者が着用するバッジデザイン



くすの木保育園

お問い合わせ先 宮崎大学 清花アテナ男女共同参画推進室

「保育園」や「就学児の一時的に預かるための施設」も設置しています。詳しくはP59をご覧ください。

<http://www.miyazaki-u.ac.jp/kiyohana/>



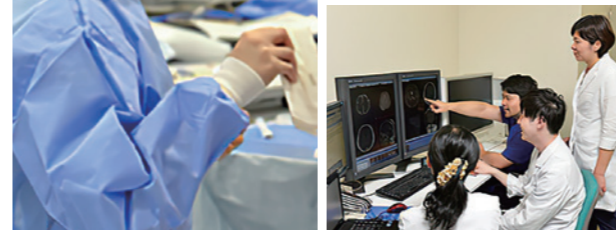
みやぎで！
はじめよう！

新時代で咲き誇る 専門医を育てる

現場体験を重視し
共に学ぶ

○ 新専門医制度の枠組み

宮崎大学では、臨床研修(2年)修了後は、シームレスな体制で、新しい専門医制度に即した専門研修プログラムを19領域用意しております。宮崎県での研修は、現場体験を重視し、教えるというよりも、一緒に学んでいくスタイルです。

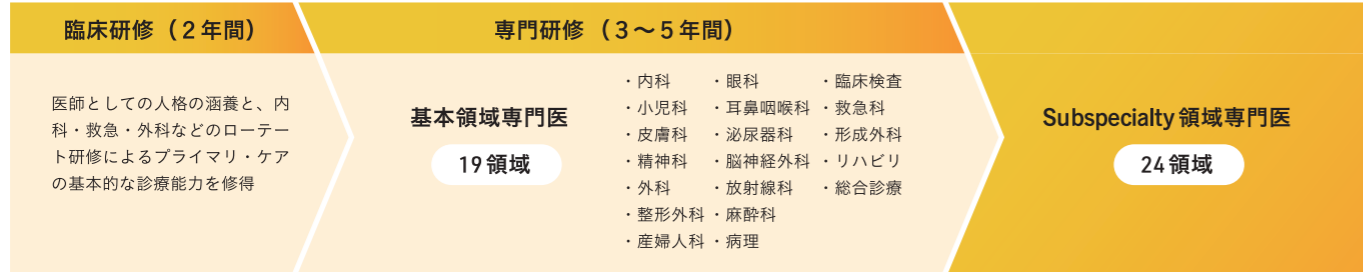


自然環境にも恵まれた宮崎で、
より専門的でより幅広い視野を持つ
スペシャリストを育成

CONTENTS

基本領域

- 07 内科
- 10 循環器内科
- 11 腎臓内科
- 12 血液内科
- 13 脳神経内科
- 14 呼吸器内科
- 15 内分泌・代謝・糖尿病内科
- 16 膠原病内科
- 17 感染症内科
- 18 消化器内科
- 19 小児科
- 21 皮膚科
- 23 精神科
- 25 外科
- 28 消化器外科
- 28 心臓血管外科
- 29 呼吸器外科
- 29 小児外科
- 30 乳腺外科
- 30 内分泌外科
- 31 形成外科
- 33 整形外科
- 35 リハビリテーション科
- 37 産婦人科
- 39 眼科
- 41 耳鼻咽喉科
- 43 泌尿器科
- 45 脳神経外科
- 47 放射線科
- 49 麻酔科
- 51 病理
- 53 臨床検査
- 55 救急科
- 57 総合診療



○ 宮崎県専門研修プログラム合同説明会

毎年6月下旬から7月初旬にかけて、研修医・医学生を対象とした宮崎県専門研修プログラム合同説明会を開催しています。県内6専門研修基幹施設のプログラムのポイント解説、各領域の個別説明を行っています。



○ 宮崎県の臨床研修・専門研修病院を見学してみませんか？

宮崎県の臨床研修・専門研修病院をよりよく知ってもらうために見学の受け入れを実施しております。将来の臨床研修・専門研修病院の選択に向けて情報収集をされる医学生及び臨床研修医の方を対象として交通費等の一部を支援しています。

区分	住居地	支援額
九州	鹿児島	15,000円
	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分	20,000円
中国・四国	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知	25,000円
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	30,000円
中部・北陸	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重	35,000円
関東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川	40,000円
沖縄	沖縄	40,000円
北海道・東北	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	45,000円

県内の医学生の方 2023年7月現在

臨床研修病院	支援額
宮崎県立延岡病院	4,000円
宮崎県立日南病院	3,000円
藤元総合病院	3,000円

県内の臨床研修医の方 2023年7月現在

区分	支援額
延岡市⇄都城市 延岡市⇄日南市	5,000円
宮崎市⇄延岡市 都農町⇄都城市 都農町⇄日南市	4,000円
宮崎市⇄都城市 宮崎市⇄日南市	3,000円
都農町⇄宮崎市 都農町⇄延岡市	2,000円

交通支援
あります！

支援要件等がありますので、必ず宮崎県地域医療支援機構のHPをご確認ください。

スマートフォンからお申込できます。

宮崎県 病院見学

<https://www.med.pref.miyazaki.lg.jp/study/kengaku/>

内科専門研修プログラム

宮崎の地で内科を極める
内科専門医の育成を地域で支援します

募集定員 **25名**
研修期間 **3年**

責任者からのメッセージ

内科には、熱や全身倦怠感、痛み、呼吸困難、腹痛などの自覚症状を有する患者さんが受診されます。内科医は、患者さんの多彩な訴えや症状から鑑別診断を行い、必要に応じてサブスペシャリティ領域の専門医にコンサルトし、また、肺炎、糖尿病、高血圧などのcommon diseaseに対処する必要があります。本プログラムでは、この様な全ての内科医の基盤となる研修に加え、内科の各サブスペシャリティ領域の研修も併行して行います。研修終了時には、広範囲な内科疾患の基本的な診断、治療ができることに加え、各自が選択したサブスペシャリティ領域の専門医への研修にシームレスに移行できます。

宮崎の地で、内科を極めよう。



循環器・腎臓内科学分野
教授 **海北 幸一**



血液・糖尿病・
内分泌内科学分野
教授 **下田 和哉**



呼吸器・膠原病・感染症・
神経内科学分野
教授 **宮崎 泰可**



消化器内科学分野
教授 **河上 洋**

プログラムの特徴

- 3種類の研修プログラムのなかから、研修期間や分野も自由に選択できます。
- 宮崎県全県下における地域の病診連携の中核のため、多数の症例を経験することができます。
- 各Subspecialtyのエキスパートがそろっていますので、将来Subspecialty専門医の取得につながる内科研修が可能です。
- 各種臨床試験、臨床研究や基礎的研究の基本を身につけることが可能で、将来的な大学院での研究者への道も提供できます。

連携施設名等

	施設名	指導医
基幹施設	宮崎大学医学部附属病院	下田 和哉 教授、他51名
連携施設	県立宮崎病院、県立延岡病院、県立日南病院、宮崎市医師会病院、都城市医師会病院、宮崎東病院、都城医療センター、宮崎江南病院、古賀総合病院、潤和会記念病院、宮崎善仁会病院、千代田病院、平和台病院、宮崎生協病院、国立循環器病研究センター、宮崎県済生会日向病院、日南市立中部病院、高千穂町国民健康保険病院	
特別連携施設	藤元上町病院、共立病院（延岡市）、美郷町国民健康保険西郷病院、池井病院、京町共立病院、宮永病院、西都児湯医療センター、串間市民病院、宮崎市立田野病院、海老原総合病院	

プログラム達成目標

内科研修プログラムでは、主担当医として、入院から退院までの可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整を包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画をたて実行する能力

の習得を持って目標の到達とします。専攻医3年終了時で、研修手帳に定められた70疾患群のうち、少なくとも56疾患群、160症例以上経験し登録します。また病歴要約は29症例を提出します。

専門医取得までのタイムスケジュール

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の3つのコースを準備しています。

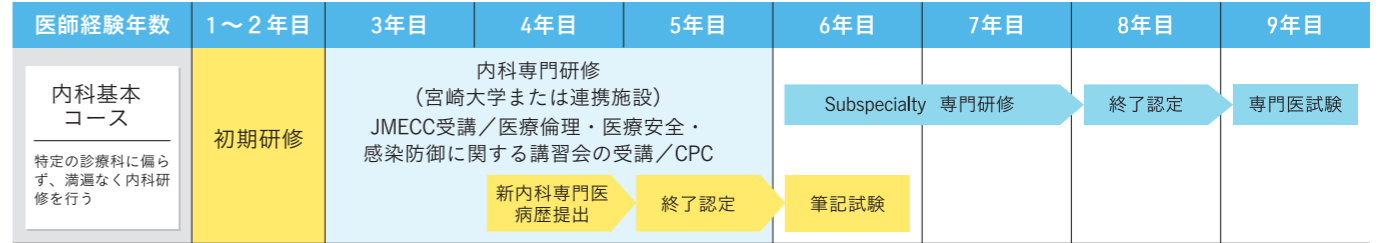
- 内科基本コース
- Subspecialty 重点コース
- 内科・Subspecialty 混合コース

コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。Subspecialty が未決定、または高度な内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します。専攻医は各診療科の医師の指導のもと、3年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などを3ヶ月から6ヶ月毎にローテートします。

将来のSubspecialty が決定している専攻医はSubspecialty 重点コースまたは内科・Subspecialty 混合コースを選択します。Subspecialty 重点コースはSubspecialty の希望診療分野を原則として1年か2年間研修し、研修進捗状況によって他の診療科を3ヶ月から6ヶ月毎にローテーションします。いずれのコースを選択しても遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており、専攻医は卒後6年目以降で内科専門医、その後Subspecialty領域の専門医が7年目か8年目以降で取得できます。内科・Subspecialty 混合コースは4年間かけて内科・Subspecialty領域を合わせて研修するもので、専攻医は卒後7年目以降でそれぞれ内科専門医、Subspecialtyの専門医の取得ができます。

1 内科基本コース

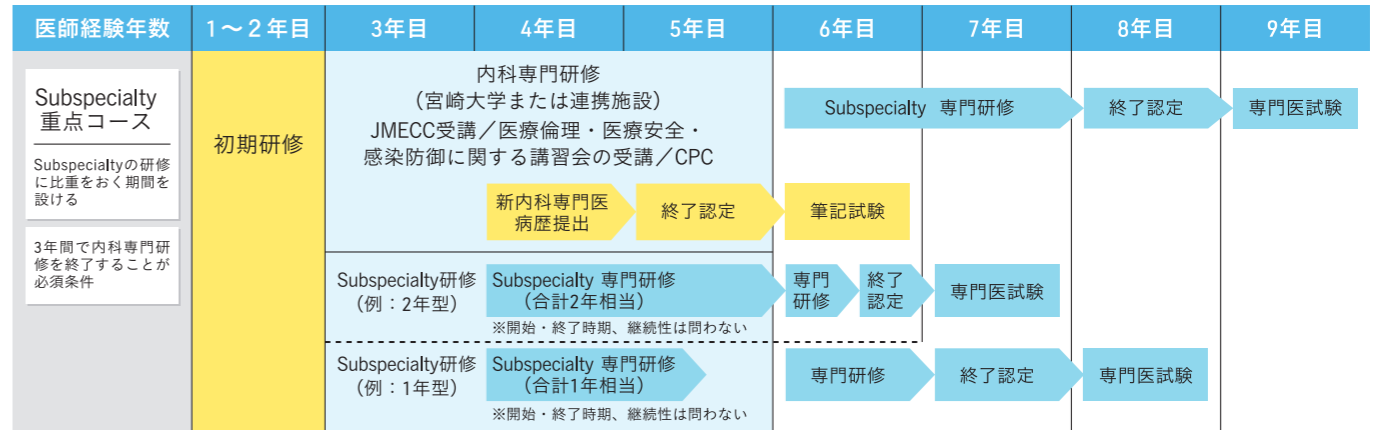
内科(Generality)専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度Generalistを目指す方も含まれます。将来のSubspecialtyが未定な場合に選択することもあり得ます。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専攻医研修期間の3年間において内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として、延べ2年間に4科を基幹施設でローテーションします。



2 Subspecialty 重点コース

希望するSubspecialty領域を重点的に研修するコースです。3年間で内科専門研修を修了することが必須条件で、Subspecialty領域の研修を合計1年間か2年間の2タイプから選択します。Subspecialty領域研修の開始・終了時期、継続性は問いません。この期間、専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から、内科医としての基本姿勢のみならず目指す領域での知識、技術を学習することにより、内科専門医取得へのMotivationを強化することができます。連携施設における当該Subspecialty科において内科研修を継続して

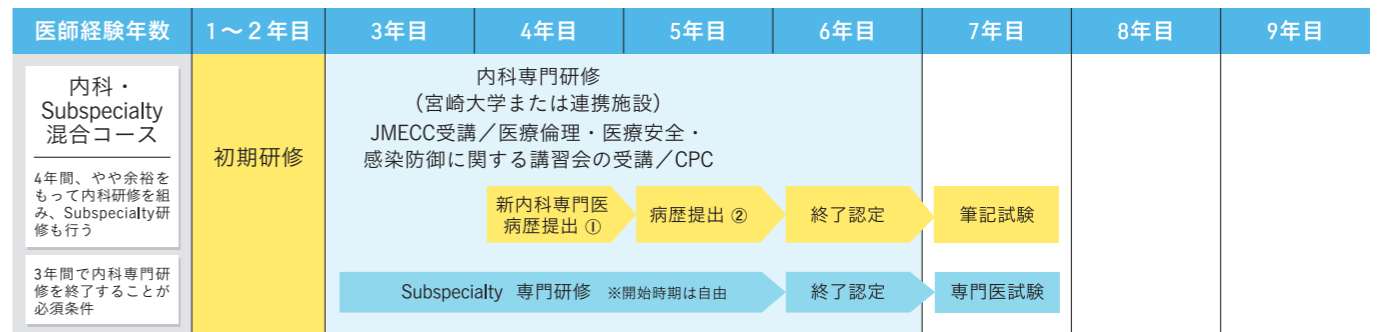
Subspecialty領域を重点的に研修することも可能で、充足していない症例を経験します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望するSubspecialty領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。なお、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から連携施設での重点研修を行うことがあります。あくまでも内科専門医研修が3年間で修了することが必須条件です。図に示すこのコースでは、1年型と2年型の研修コースを示していますが、Subspecialty開始・終了時期、継続期間については専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。



3 内科・Subspecialty 混合コース

このコースは、4年間、やや余裕をもって内科専門研修を組み、Subspecialty研修も行うもので、4年間で内科専門研修とSubspecialty領域の研修を同時に修了するものです。Subspecialty重点コースと同様に、Subspecialty領域研修の開始・終了時期、継続性は問いません。

研修内容や連携施設の選定などはSubspecialty重点コースと同様に行います。このコースを選択すると内科専門医試験は卒後7年目以降に受験することとなります。また、専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は、②あるいは③のコースを選択の上、大学院の指導教員と協議して大学院入学時期を決めて頂きます。



週間行事・研修に関する行事

- 朝カンファレンス、分野ごとのカンファレンス・回診朝、患者申し送りを行い、指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。また分野ごとのカンファレンス・回診もあり、専門的指導を受けます。
- 総回診：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。
- 症例検討会(毎週)：診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。
- 診療手技セミナー(毎週)：分野ごとの診療手技において、診療スキルの実践的トレーニングを行います。
- CPC：死亡・剖検例、難病・稀少症例についての病理診断を検討します。
- 関連診療科との合同カンファレンス：関連診療科と合同で、患者の治療方針について検討し、内科専門医のプロフェッショナルリズムについても学びます。
- 抄読会・研究報告会(毎週)：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し、意見交換を行います。研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学びます。
- Weekly summary discussion：週に1回、指導医とのdiscussionを行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。
- 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。

症例および技能の達成目標

	専門研修 1年目	専門研修 2年目	専門研修 3年目
症例	カリキュラムに定める70疾患群のうち、20疾患群以上を経験し、専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録することを目標とする。	カリキュラムに定める70疾患群のうち、通算で45疾患群以上を(できるだけ均等に)経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録することを目標とする。	主担当医として、カリキュラムに定める全70疾患群、計200症例の経験を目標とする。但し、修了要件はカリキュラムに定める56疾患群、そして160症例以上(外来症例は1割まで含むことができる)とする。この経験症例内容を専攻医登録評価システム(J-OSLER)へ登録します。既に登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード(仮称)による査読を受ける。
技能	疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにする。	疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにする。	内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができるようにする。

取得可能な専門医資格および技能

取得可能な専門医資格：内科専門医

取得可能な技能：総合内科Ⅰ(一般)、Ⅱ(高齢者)、Ⅲ(腫瘍)、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、その他各分野における専門的身体診察、専門的検査、治療について技能を習得できます。

主要症例名と実績数

宮崎大学医学部附属病院において、1年間の退院患者数は約4千人、外来患者延べ人数は6万人です。救急搬送症例も内科のみで年間150件程度あります。各分野、総合内科Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症の各分野の症例数は十分に満たします。

指導医からのメッセージ

初期研修医時代とは違い、専攻医の皆さんの『仕事量』、『仕事内容』、そして『責任』は格段に増すと思います。将来進みたいSubspecialtyのことを視野に入れつつ、まずは内科医としての基本的な能力を培って欲しいと思います。自分としても良いと思えるような内科医を育てていきたいと考えています。頑張ってください！



先輩からのメッセージ

主治医として患者さんと疾患に携わっていくには責任も申し掛かります。その人の現状をいかに捉えてどうアプローチするか、しっかりと考えながら診療するにあたって、上級の先生や他科とも垣根が低く、大学病院だからできることもあれば、地域連携を念頭におく必要もある、ここでの研修は恵まれた環境だと感じます。県内中から集まる多彩な疾患の患者さんと、熱意のある先輩後輩から刺激を受けながら、一緒に仕事をしませんか。日々振り返りながら、新しい専門研修も安心して進められるはずです。

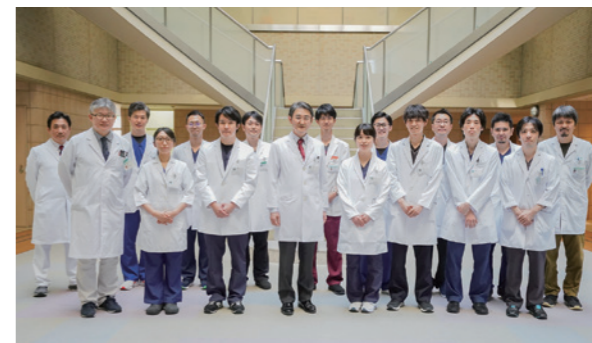


お問い合わせ先

担当：久富木 庸子 TEL：0985-85-9121 e-mail：naika_senmon@med.miyazaki-u.ac.jp

責任者からのメッセージ

循環器内科では循環器疾患の病態を深く理解し、急性期から慢性期までの循環器疾患診療を適切に行える知識や診療技術を修得するために日夜研鑽を積んでいます。そのため、当教室で修練を積んだ多くの医師は循環器内科の専門医として、大学病院および県内外の多くの医療施設で信頼される医師として活躍しております。また、当科では最先端の循環器診療を遅滞なく取り入れる努力をするともに、当診療科発の新たな循環器診療のエビデンス創出も目指しております。循環器診療に興味をもっておられる志のある若手医師が当診療科で研修をされることを歓迎します。



領域の紹介

循環器内科では虚血性心疾患、不整脈疾患、弁膜症、心筋症および重症心不全など幅広い疾患に対して、他診療科との連携を保ちながら、総合的な診療を行うよう努めています。また、救急疾患症例(急性心筋梗塞、急性心不全、大動脈解離など)も経験することができ、救急医療に関する経験・知識も身につけることができます。心臓カテーテル検査、カテーテルアブレーション、経皮的冠動脈形成術などの検査・治療についても一人一人丁寧に行っており、内科専門医、循環器専門医による指導体制も整っています。

教育達成目標

臨床医としての倫理観を培い、内科領域の基礎的な知識・技術の修得のみならず、循環器内科専門研修を連動して修了し、優れた内科専門医・循環器専門医を養成することを目標としています。循環器疾患の非観血的検査や心臓カテーテル検査、心臓電気生理学的検査の修得、循環器疾患の薬物治療の修得、救急処置(直流除細動・体外式ペースティング・心膜穿刺など)の修得を目標として教育・指導を行います。

週間行事・研修に関する行事

時刻	月	火	水	木	金	土日
7:00						
8:00	8:00～リサーチカンファ 5F医局	8:00～TAVI前カンファ 3F外科医局	7:45～手術検討会 3F外科医局	8:00～心電図検討会 5F医局	8:00～ショートカンファ 5F医局	
9:00						
10:00	外来 初診 再診	外来 再診	外来 初診 再診	外来 再診	外来 再診	
11:00	RI 病棟業務 心カテ	病棟業務 心カテ PCI	RI 病棟業務 心カテ PCI	病棟業務 心カテ PCI	RI 病棟業務 心カテ PCI	
12:00						
13:00						
14:00	14:00～病棟回診					
15:00	15:00～病棟カンファ 5F医局					
16:00			16:30～病棟入院症例の申し送り	5F医局		
17:00	17:00～医局会 5F医局	17:00～循環器カンファ カテ症例検討		17:00～循環器カンファ 次週カテ検討		
18:00						18:00～第4月曜 ACHDカンファ 5F医局

カテーテル検査、治療について

当科では、不整脈に対するカテーテルアブレーション、虚血性心疾患に対するPCI、閉塞性肥大型心筋症に対するPTSMA(経皮的に隔心筋焼灼術)、肺高血圧症に対するバルーン形成術、末梢動脈疾患に対する血管内治療を行っております。不整脈に対するペースメーカーやICD(埋込み型除細動器)に加え、重症心不全に対してはCRT(心臓再同期療法)を多く行っています。近年、弁膜症に対するカテーテル治療介入(TAVI)の症例も増加しており、今後ますます発展していくものと考えられます。とてもやりがいのある治療です。ぜひ一緒にカテーテル治療をしましょう。



ココに注目! 生理検査室の紹介

生理検査室では、超音波検査士が中心となり、心エコー、血管エコー検査を行っています。近年ではスペックルトラッキングを用いた心機能評価や3Dによる弁形態評価なども行っています。経食道心エコー検査では、高い技術を習得した循環器内科医師のもと、3Dや解析ソフトを用いた画像構築を行い、弁膜症や先天性心疾患等の評価において質の高いエコー画像診断を行っています。自己流ではなく、「質の高い」心エコー検査の手法を学べる場として多くの若手医師の育成にも力を入れています。



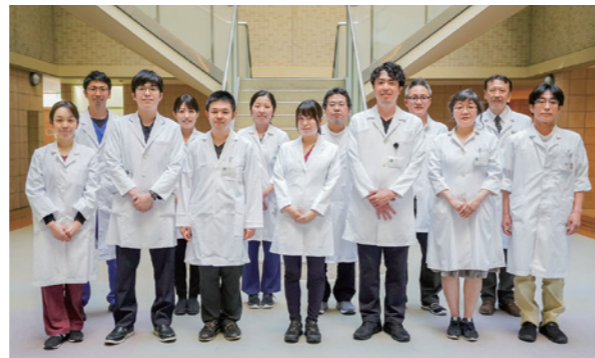
先輩からのメッセージ

循環器診療の面白さを教えて下さった先生方に憧れ、その背中を追いかけたこの世界に飛び込みました。治療に難渋した心不全の患者様が細やかな薬剤調整で症状が改善する様子に感銘を受けると同時に、心不全の再入院を減らし患者さんの幸福度を上げるために、患者背景を俯瞰して最適な医療を提供できるようになりたいと痛感しました。心不全の病態には、虚血、不整脈、弁膜症や心筋症など様々な基礎疾患があり、画像検査や病理検査の理解、長期予後改善のためリハビリの介入や食事の調整なども重要です。また、多方面の

心不全加療における多職種連携を学ぶためには設備と人員の整った大学病院での研修が望ましいと考えました。そして何より、尊敬する先生方が所属される医局の一員となりたくて入局を決意しました。当科は今年度より海北教授をお迎えし、新体制でスタートしています。旧第一内科の先生方が積み重ねてこられた伝統を受け継ぎ、生まれ変わっていく循環器内科は、新たな幕開けを迎えたばかりです。私たちが創る、宮崎の循環器医療の未来をより良いものにするためには皆さんの力が必要です。ご入局を心よりお待ちしております。

責任者からのメッセージ

腎臓内科では、急性期から慢性期まで、全身性疾患の一部としても幅広く症例を経験することができます。また、経験豊富な多数の先輩医師が、研修医の皆さんをしっかりとサポートします。私も先輩たちから、そうやって育ててもらいました。腎臓内科の研修期間は必ず将来の糧になると思います。ともに切磋琢磨しましょう！



領域の紹介

当内科では、検尿異常から腎不全まで、腎臓分野の全てを網羅する疾患の内科診療を担当しています。

- 1 検尿異常、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎機能障害に対し、評価を行った上で適応があれば腎生検を行っています。その後、病理医を交えた皆で腎病理診断に関する検討を行い、ステロイド薬や各種免疫抑制薬による治療、場合によってはアフェレーシス療法なども行っています。
- 2 腎不全に関しては、末期の慢性腎不全や院内発生の急性腎不全に対し、透析導入も含めて診療を行っています。透析に必要なバスキュラーアクセスの手術は当科で行っています。

教育達成目標

【一般目標】

患者さんに寄り添いながら病歴を系統的に聴取し、全身の理学所見がとれるようになる。
また、入院後の検査の進め方や治療方針について指導医(上級医)と議論できるようになる。

【個別行動目標】

- 毎回の回診で担当患者と良好なコミュニケーションがとれ、指導医と情報を共有できるようになる。
- 病歴聴取と身体診察から複数の鑑別診断を挙げられるような臨床推論思考ができるようになる。
- 担当患者の全身状態/バイタルサインから緊急度/重症度を判断できるようになる。
- 鑑別診断について「確定診断」と「除外診断」に必要な初期検査を選択できるようになる。

週間行事・研修に関する行事

時間	月	火	水	木	金	土
AM	病棟・外来診療 透析	病棟診療 透析	病棟・外来診療、 シャント手術、透析	病棟診療 透析	病棟・外来診療 透析	透析 (スタッフ)
PM	入院患者 カンファレンス	・各種アフェレーシス療法 ・病理カンファレンス ・腎臓研究室/ カンファレンス	病棟診療	・腎生検 ・各種アフェレーシス療法 ・退院患者 サマリチェック	病棟診療	

取得可能な専門医資格および技能

当院は日本内科学会、日本腎臓学会、日本透析医学会の教育認定施設であり、当科での研修期間は各学会の専門医資格に使用できる。

- 3 他科で入院した透析患者などの当院入院中の透析管理の責任者を担っています。また、各種アフェレーシス療法なども管理しております。

腎疾患は全身性の内科疾患の合併症であることも多く、腎機能障害では輸液管理や感染症治療等も重要となります。そのため、全身を診ることが重要であり、内科疾患を幅広く学ぶことができます。また、内科専門医・各学会専門医を取得するために必須な疾患を経験することができます。経験豊富なスタッフが、あなたの初期研修をサポートします。



- 末梢静脈路の確保ならびに動脈穿刺が安全に施行できるようになる。
- 輸液の必要性を判断でき、その際の初期輸液メニューを組むことができるようになる。
- 状況に応じた担当患者の紹介プレゼンテーションができるようになる。
- SOAPに基づいた問題解決型の診療録作成が遅滞なくできるようになる。

主要症例と実績数

慢性糸球体腎炎(IgA腎症、他)、ネフローゼ症候群、全身性疾患に伴う糸球体疾患(糖尿病性腎症、腎硬化症、ループス腎炎、他)、急速進行性糸球体腎炎(ANCA関連腎炎、他)、尿管・腎間質性疾患、急性および慢性腎不全(透析導入やバスキュラーアクセス(シャント)形成術、合併症治療を含む)

責任者からのメッセージ

血液疾患の診療では多臓器の合併症管理が必要となることから、血液内科医には高度な専門性と共に全身を診る総合的な能力が必要です。また、私たちは、臨床研究や基礎研究の志、つまりリサーチマインドを抱いて働くことにより、知識のアップデートだけでなく、論理的思考力や判断力、周囲を巻き込む力が磨かれると考えています。血液内科では生命を脅かす難治性の疾患と闘います。総合力とリサーチマインドを武器に、治療目標を定め、到達への道筋を患者さんと確実に進んでいける血液疾患のプロフェッショナルを共に目指しましょう。

領域の紹介

血液内科では造血器腫瘍の患者さんを多く診療します。この10年ほどの急速な技術革新により、腫瘍細胞の持つ全ての遺伝子情報(ゲノム)を短期間で解析することができるようになりました。造血器腫瘍は、固形腫瘍に比べて遺伝子変異による腫瘍化の仕組みは比較的単純であることがわかり、分子標的治療による腫瘍の制御が可能となりつつあります。また、腫瘍に対する

教育達成目標

「赤血球系疾患」、「白血球系疾患」、「血栓止血系疾患」の各領域の症例経験に加え、「医の倫理と医療安全」、「知識」、「診察」、「検査」、「治療」に関する専門知識の取得を目標とします。造血などの血液学の基礎及び疾患の成因・病態生理、疫学といった基

週間行事・研修に関する行事

- 主治医として患者診察を行い、回診、カンファレンスを通して診療情報の収集、治療方針決定の方法を学びます。
- 国内及び海外の関連学会に参加し、最新の血液学の知識を得ます。
- 症例を発表し、論文として報告します。
- 多施設の臨床研究に携わります。
- 血液疾患の細胞遺伝学、分子生物学、免疫学、細胞生物学といった基礎研究に携わります。

主要症例名と実績数

■赤血球系疾患

鉄欠乏性貧血、腎性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、発作性夜間ヘモグロビン症、自己免疫性溶血性貧血、造血不全、再生不良性貧血、赤芽球病、鉄芽球性貧血

■白血球系疾患

非腫瘍性疾患、無顆粒球症、血球貪食症候群、壊死性リンパ節炎、骨髄系腫瘍

■骨髄増殖性疾患

慢性骨髄性白血病、真性多血症、原発性骨髄繊維症、本態性血小板血症、骨髄異形成症候群、急性骨髄性白血病

■リンパ系腫瘍

急性リンパ性白血病、慢性リンパ性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫

■出血性疾患

血小板減少症、血友病、後天性凝固因子異常

■造血細胞移植

自己末梢血造血幹細胞移植、同種骨髄移植、同種末梢血造血細胞移植、臍帯血移植、ハプロ移植

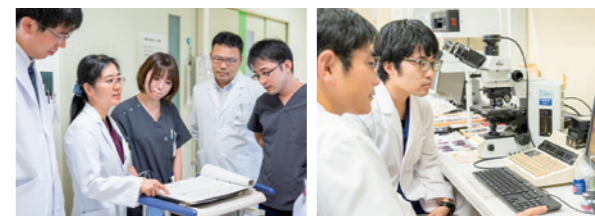


免疫細胞治療の分野でも同種造血細胞移植やCAR-T療法の画期的な進歩が始まろうとしています。21世紀前半はきっと腫瘍を克服する時代になるでしょう。特に造血器腫瘍はその最先端を進むことができる分野です。

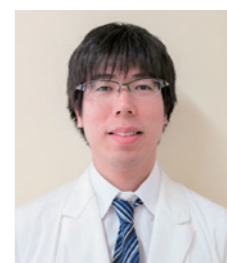
本的知識、形態学から遺伝子検査にわたる検査、薬物療法、輸血・細胞移植療法などの治療学を習得し、幅広く症例を経験することで、血液専門医として必要な知識・技能・態度を身に着けます。

取得可能な専門医資格および技能

日本血液学会認定血液専門医、日本造血細胞移植学会認定医



先輩からのメッセージ



血液疾患グループ 秋月 溪一

日本人の死因の第1位が悪性腫瘍となり、対策と治療の充実が叫ばれ、また移植・再生医療が隆盛となっている昨今、そのような分野に精通した血液・腫瘍内科医の需要は高く、その知識と経験が世の中に必要とされています。患者さんの笑顔を見るために…。血液疾患・悪性腫瘍の診療や研究に興味をもつ意欲ある若い仲間を待っています。

責任者からのメッセージ

脳神経内科は脳血管障害からパーキンソン病のような変性疾患まで幅広い分野を網羅する領域です。また高齢化社会に伴って多くの疾患が増加傾向にある領域でもあります。難しく稀な疾患のイメージから多くの疾患を目的とするところがある領域となっています。また患者さんの社会背景や療養・福祉の環境調節が必要なことも多い領域です。疾患から福祉まで経験することで、医師として今後必要な多くの技能を得ることができる領域です。

領域の紹介

内科における脳神経内科の必要とされる症例は9分野にわたります。

- 1 脳血管障害
- 2 感染症・炎症性疾患
- 3 中枢性脱髄疾患(多発性硬化症)・免疫性末梢神経疾患(ギランバレー症候群)・免疫性筋疾患(多発筋炎)
- 4 末梢神経疾患・筋疾患
- 5 変性疾患(パーキンソン病など)
- 6 認知症疾患
- 7 機能性疾患(てんかん)
- 8 自律神経疾患・脊髄神経疾患・腫瘍性疾患
- 9 代謝性疾患・内科疾患に伴うもの

いずれも代表的かつ脳神経内科では多く経験のできる疾患が挙げられています。

取得可能な専門医資格および技能

日本内科学会専門医、脳神経内科専門医、
日本臨床神経生理学会専門医

主要症例名と実績数

2022年度の総症例数は約350症例で、主たる疾患の実績数は、以下のとおりです。

- 神経変性疾患(パーキンソン病、ALSなど) 約80例
- 中枢性脱髄疾患・自己免疫疾患(多発性硬化症など) 約50例
- 末梢神経障害(CIDP、ギランバレー症候群など) 約70例
- 筋疾患(筋炎、重症筋無力症など) 約50例
- 感染性疾患(HAM、髄膜炎など) 約30例
- 脳血管障害(脳梗塞など) 約20例
- 機能性疾患(てんかんなど) 約20例
- 代謝性疾患、他 約30例

ココに注目!

10名足らずの診療チームですが、少数精鋭で活気に溢れており、多方面に積極的に取り組んでいます。

- 他大学・他分野との連携による日本最先端医療の実践(HTLV-1 関連脊髄症など)
- 医工連携で世界をリードする研究の遂行(AIを利用した神経診察の定量化など)
- 定期レクチャーなどの若手医師の教育の充実(研修医向け勉強会、PANの会)など

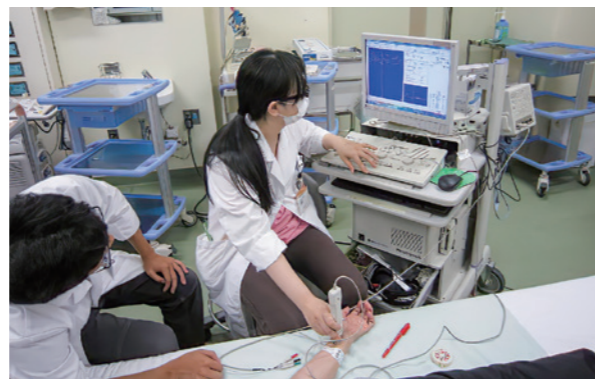


教育達成目標

脳神経内科での必要経験症例数は最終9症例のうち専攻医3年終了要件では5症例以上となっています。また必要な技能として、身体診察、専門的検査があります。

- 1 主として判定を行う(頭部・脊椎単純X線、頭部CT・頭部/脊椎脊髄MRI検査)
- 2 自ら施行し判定を行う検査: 腰椎穿刺(脳脊髄液検査)

治療は、薬物療法、救急処置と初期対応、その他が挙げられています。いずれも脳神経内科病棟では十分に経験することができます。



先輩からのメッセージ

ここ数年間、脳神経内科を志す若き医師が入局してきており、脳神経内科医は順当に増えて、後輩の指導も十分にできる環境が整っています。臨床経験を積むために、若手医師を積極的に国内の他施設へも研修の場を広げています。ご自分が取り組みたい分野がある場合には、その意向に沿うように関連施設や国内の先端医療施設への派遣も検討できます。脳神経内科は今後医療の発展が最も期待できる分野でもあり、若い先生方の臨床と研究への意欲を十分に発揮できる分野です。脳神経内科に興味のある先生方にはぜひ当科にて専門医を目指してほしいです。是非、一緒にがんばりましょう!

責任者からのメッセージ

呼吸器内科は、呼吸器疾患全般を診療しており、common diseaseから重症の急性期疾患まで幅広く対応しています。経験豊富で優しいスタッフが揃っており、いつでも気軽に相談できます。呼吸器内科領域は、高齢化や先進医療の発展に伴い更にニーズが高まっている分野です。大学附属病院ならではの研修によって、高度な専門性を身につけるとともに、患者さんに寄り添った診療を行う総合力の高い内科医を育成します。大きな夢と希望を持った若い先生をお待ちしています。是非、一緒に頑張りましょう!

呼吸器内科 宮崎 泰可

領域の紹介

呼吸器内科は、腫瘍性疾患、呼吸器感染症、びまん性肺疾患、気管支喘息、COPD、肺循環障害、自己免疫疾患、呼吸調節障害など、他の内科領域と比較しても非常に多岐にわたる領域を担当する診療科です。当科の医師は日々知識と技術の研鑽を重ね、最新の知見を更新しながら、世界レベルでの医療に取り組んでいます。屋根瓦方式の臨床教育で関連病院も充実し、豊富な臨床経験を積むことが可能です。また、気管支内視鏡検査や胸腔ドレーンをはじめ手技が多いことや、多職種でチーム医療を実践していることも大きな魅力です。そして何より、患者さんひとりひとりと人間的に向き合い、寄り添い、一緒に治療を進めていく全人的医療を実践するのが呼吸器内科の醍醐味です。当科では家庭的な雰囲気の中でやる気に満ちた呼吸器内科医が集まり、一丸となり切磋琢磨しながら診療にあたっています。

教育達成目標

- 1 総合内科医的、腫瘍内科医的な視点から、問診に重きを置いた基本的かつ系統的な診療能力を習得する。
- 2 画像所見、生理学的所見、検査所見の解釈を含めた洞察力、臨床的スキル、問題解決力、鑑別疾患を挙げる能力、プレゼンテーション能力を身につける。
- 3 患者さんを中心とした多職種とのチーム医療連携を学び、全人的医療を実践する。
- 4 将来の自分のキャリアパスを見つめ、研修中に実践すべき計画を立案、実行する。

取得可能な専門医資格および技能

日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器学会指導医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医、日本感染症学会専門医、日本感染症学会指導医、日本がん治療認定医

主要症例名と実績数

令和4年度 呼吸器内科
外来初診者数 477名、新患入院患者数 430名。

主要症例: 原発性肺癌、特発性間質性肺炎、膠原病肺、サルコイドーシス、細菌性肺炎、肺膿瘍、肺真菌症、肺結核症、肺非結核性抗酸菌症、ニューモシスチス肺炎、COPD、びまん性汎細気管支炎、気管支喘息、急性好酸球性肺炎、過敏性肺炎、肺胞蛋白症等。

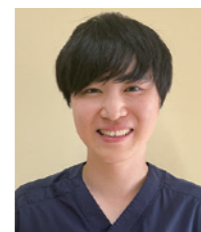


先輩からのメッセージ



北村 彩 医師 平成29年 宮崎大学卒

呼吸器内科に入局して今年で5年目になりました。大学では肺癌、難治性喘息、間質性肺炎など専門性の高い疾患を見つ、外来診療では気管支喘息、非結核性抗酸菌症、COPDなどcommon diseasesを沢山みる機会も増えました。気管支鏡などの手技もやりがいがあります。呼吸器は慢性疾患が多いため、患者さんと信頼関係を築くことができます。新規治療も次々出てきており、今後の治療の進歩に期待が持てる分野です。新入局員も増え賑やかな雰囲気です。呼吸器内科医は決して多くなく、新しい力を欲しています。興味があれば是非見学に来てみて下さい!



横尾 優希 医師 令和2年 宮崎大学卒

4年目の横尾優希です。当院の呼吸器内科は肺癌、びまん性肺疾患、感染症、COPDや気管支喘息などの気道疾患、それぞれの領域にエキスパートの先生がいます。それらの疾患を満遍なく診ることができ、困った時は上級医に気軽に相談できる雰囲気があります。元々generalな診療に興味があった私にとってはうってつけの環境でした。医局全体の雰囲気もよく、一緒に頑張れる同期も多かったため入局先として正解だったと感じています。また、専攻医1年目から気管支鏡検査や胸腔ドレーン、胸腔穿刺など手技も数多く経験させていただいています。研修医の先生にも希望に応じて手技に参加してもらっています。手技をやりたいから、読書ができるようになりたいから、全身疾患が診たいから、急性期・慢性期疾患が診たいから、どんな理由でもいいので回ってもらえると嬉しいです。皆さんと一緒に仕事ができるのを楽しみにしています。

責任者からのメッセージ

内分泌・代謝・糖尿病内科では、先端巨大症などの希少疾患から糖尿病や脂質異常症などのcommon diseaseに至るまで、多様な患者さんを担当します。また、三次救急医療機関として県内の医療機関から紹介される糖尿病性ケトアシドーシスや甲状腺クリーゼを経験できます。当科での研修で、外科、泌尿器科、小児科、産婦人科などとの診療連携を実践し、個人の病態や生活スタイルに合わせた糖尿病治療薬の選択を学ぶことができます。疾患の多様性、専門医による指導が当科の研修プログラムの強みと考えています。

領域の紹介

内分泌代謝関連では、甲状腺癌に対する分子標的薬や低リン血症性くる病・骨軟化症を治療するFGF23抗体医薬などの新規治療薬が次々と上市されています。糖尿病関連では、インスリン製剤を含めた10種類の糖尿病治療薬が保険適応となり、持続血糖モニタリングやセンサー補助型皮下持続インスリンポンプなどデバイスが次々に開発されています。内分泌代謝専門医は高度な専門性から、糖尿病専門医は症例数の多さから、医療機関においてニーズの高い領域です。対象疾患の性質から長期間にわたり外来・入院で担当するため、患者さんのライフイベントに寄り添った医療を提供することが診療科の特徴です。

取得可能な専門医資格および技能

取得可能専門医：日本内分泌学会内分泌代謝科専門医、日本糖尿病学会専門医、日本甲状腺学会専門医、日本肥満学会肥満症専門医

教育達成目標

診療グループの一員として、コ・メディカルと協力しながらチーム医療を実践できる。

先輩からのメッセージ

1週間のスケジュール

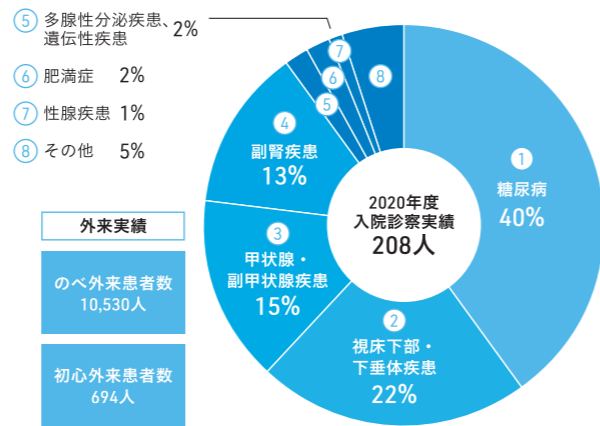
	月	火	水	木	金	土	日
8:00	出勤	出勤	出勤	出勤	出勤	当直修了	
9:00							
10:00	外来業務	外来業務		外来業務	外来業務		
11:00							
12:00	休憩	休憩	学外病院への勤務	休憩	休憩	休日	休日
13:00							
14:00	病棟業務	全体カンファ・病棟回診		学生教育	病棟業務		
15:00		内分泌代謝カンファ		病棟業務	病棟業務		
16:00	論文執筆・学会発表準備	病棟業務		論文執筆・学会発表準備	内分泌代謝カンファ		
17:00	退勤	退勤	退勤	退勤	学外病院への当直		

内田 泰介

皆さんこんにちは。2018年入局の内田泰介です。私はここ内分泌・代謝・糖尿病内科で新専門医制度の第1期生として内科研修を開始し、滞りなく日本専門医機構認定内科専門医と内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医を取得することができました。嬉しいことに優秀な先輩たちが毎年のように入局してくれており、診療の方は彼らにだいたいお任せしつつ、私は昨年度から大学院生として研究に精を出しているところです。休日は趣味のテニスをしたり、野球観戦をしたりしてリフレッシュしています。ON/OFFをしっかりできることが当科の特長だと思っています(*^o^*)



主要症例名と実績数 2020年の入院実績



週間行事・研修に関する行事

週2回火曜日に金曜日にカンファレンスを行い、情報を共有します。屋根瓦式に指導医チームに加わり、病棟ラウンド、急患や他科コンサルテーションへの対応を行います。興味ある症例を担当した際は、院内外の研究会や学会で筆頭演者として発表できます。

古郷 美美子

2019年入局の古郷です。入局2年目に産休育休をしっかりと取らせていただき、現在は職場復帰しています。内科専攻プログラムの症例集めや学会発表など、ご助力頂き無事に試験合格できました。妊娠出産子育てにとっても理解のある職場で、働きやすい環境が整っているので、キャリアも家庭も大切にできると思います。内分泌代謝・糖尿病疾患の特徴として”内科一般”の知識や経験を積める専門領域なので、進路で迷ったり、内科を先行しようと思ってる研修医の先生は、是非、見学に来て下さい～！

中村 孝之

2023年春に2人目が生まれ、仕事と育児を並行しながら頑張っている毎日です。通常業務に加えて、専門医獲得のためのレポート、試験勉強に論文・研究ワーク、そして仕事の前後には子供の保育園の送り迎え・・・と毎日忙殺されていますが、勉強すればするほど内分泌代謝糖尿病領域の面白さが分かるようになり、やりがいのある毎日を過ごせています。大変な時には皆でサポートしあう体制も整っており、仕事も育児も妥協することなく両立できています。

責任者からのメッセージ

膠原病診療では、様々な臨床徴候から診断を行うプロセスが非常に重要です。教科書による座学とは異なり、患者個々の診断や治療方針決定に難渋する症例を多く経験します。そして自己免疫現象の理解、分子生物学的知見に基づく治療などによって炎症病態の本質を学ぶことができます。さらに治療過程で易感染性となる症例が多いため、社会に流行している感染症、耐性菌問題、病院(院内)感染症問題など、社会的インパクトが大きい話題と常に密接に関係している領域でもあります。これらの経験を通して、問診と診察から鑑別疾患を挙げる、教科書・文献を参照しながら診断/治療方針を検討する、丁寧な説明のもと治療を進める、という内科医の基礎が身につくと考えています。専攻医の皆さんには、何よりもまず良き内科医になってほしいと願っています。

領域の紹介

関節リウマチ、全身性エリテマトーデスをはじめとする膠原病、膠原病に伴う間質性肺疾患や日和見感染症を主体とした呼吸器疾患、不明熱など診断困難な症例などを対象に診療を行います。感染制御部や検査部とも密に連携して、迅速・適格な診

教育達成目標

当科で扱う疾患は一つの臓器に限られない臓器横断的な病態で、かつ様々な病像を呈します。そのため、多臓器に加えて筋・骨格系や皮膚疾患など広く全身をバランス良く診ることのできる能力育成を目指します。内科疾患で基本となる病歴聴取、理学所見の取り方と、検査データや画像を自分で読めるようになること、また個々の患者の問題点の抽出、文献検索を経て、鑑別疾患を広く挙げ、適切な免疫抑制剤や抗菌薬の選択など診断から治療まで個々の症例で完結できることを目指します。



取得可能な専門医資格および技能

- 日本内科学会専門医
- 日本リウマチ学会専門医
- 日本感染症学会専門医
- 日本呼吸器学会専門医

主要症例名と実績数

膠原病領域：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、シェーグレン症候群、多発性筋炎/皮膚筋炎、混合性結合組織病、血管炎症候群、ベーチェット病、サルコイドーシス、IgG4関連疾患、抗リン脂質抗体症候群、間質性肺炎など

感染症領域：敗血症、日和見感染症(ニューモシス肺炎、非結核性抗酸菌症、CMV感染など)

その他：免疫抑制療法関連リンパ増殖性疾患、薬剤性ループス、肥厚性硬膜炎、好酸球増多症候群、SAPHO症候群など



断ツールの開発や適切な免疫抑制剤・抗菌剤の使用を常に目指しています。

【研修内容】

- より複雑な膠原病の経験を積む。
- 関連した呼吸器疾患の診療経験を積む。
- 専門領域の画像読影能力を習得する。
- 気管支鏡や人工呼吸器管理に精通するなど技術的な面を習得する。
- 免疫抑制剤(ステロイド等)や抗菌薬の使用方法に精通し、副作用に対処できる。
- 関連病院において、特に頻度の高い感染症やリウマチなどを含むコンディージーズの経験を積む。
- 急変に対応できるようにする。
- EBMに基づく臨床判断ができるように、文献を読む。
- 問題意識を持ち、自ら学会報告を行えるように能力を磨く。
- 専門医試験受験の準備を行う。
- 希望者は大学院に進学する。

先輩からのメッセージ

当科の大きな特徴の一つは、全身性の自己免疫疾患を診ることから多臓器に対するアプローチを行っていく点です。このため、全身の診察や各臓器に対する検査・治療方針の計画が必要となり、内科医としての力を養うことができます。主治医として多臓器の疾患に関わることから、新しく始まった内科専門医制度に関しても必要な症例を経験することができる体制となっています。また、学会への参加も盛んに行っており、専攻医の先生と一緒に担当した症例をスライドやポスターにまとめて報告することで、学会発表を経験してもらっています。膠原病という専門性の高い領域から、感染症というコモンな疾患まで幅広く勉強することができる科なので、是非ご検討下さい！

■ 責任者からのメッセージ

COVID-19の世界的な流行は、感染症診療の重要性を改めて認識させました。今後も新興感染症の発生が予想される中、感染症診療体制の充実と人材育成はますます喫緊の課題となっています。感染症内科は、感染症診療および研究、教育の充実により尽力すべく、新たに設立されました。感染症専門医は他の専門分野と比べて少なく、宮崎県においても全国的にも不足しています。感染症診療と感染制御を実践できる専門医の必要性はますます高まっています。感染症分野は、診療、研究、教育など、多岐にわたり今後も重要性が増す分野です。日本のひなた、宮崎県で感染症専門医の取得を目指しましょう！



■ 領域の紹介

細菌・真菌感染症、HIV/AIDS、性感染症、リケッチア感染症、輸入・新興感染症など専門的知識・技術を必要とする感染症の担当医として直接診療に携わります。また、院内の各診療科で治療に難渋している感染症についてコンサルテーションを受け担当医と協力・支援する役割を担うため、内科系・外科系を問わず豊富な感染症症例を経験することができます。

感染症診療とあわせて、抗菌薬適正使用に対する取り組み、院内感染対策に対する取り組みを行っています。抗菌薬適正使用に対する取り組みとしては、感染制御部と連携して、血液培養陽性患者、広域抗菌薬使用患者、免疫不全患者などの状況を把握しており、必要に応じて働きかけを行っています。今回の令和4年度診療報酬改定においては、外来感染対策向上加算・連携強化加算・サーベイランス強化加算が追加となりました。これまで以上に県内の病院や診療所と連携して、宮崎県全体での抗菌薬適正使用および感染対策のレベルアップを目指していきます。



■ 取得可能な専門医資格および技能

- 日本感染症学会 感染症専門医・指導医
- 日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医・指導医
- Infection Control Doctor

■ 教育達成目標

感染症は、全身的疾患であり、さまざまな臓器・部位に影響を及ぼすため、感染症専門医は、全身の系統的診療を行える医師でなければなりません。感染症専門医の資格取得には、基本領域学会の専門医資格取得が必要であり、感染症に関する豊富な診療経験と知識を要します。感染症の担当医として直接診療に携わる能力を備え、コンサルテーション要請を受けて担当医を指導・支援する役割を担い、院内および地域の感染対策にも積極的に貢献できる医師を目指しています。

当科は、呼吸器・膠原病・脳神経内科分野も含まれた内科学講座に属しています。この長所を活かし、4つの診療科合同で毎週感染症カンファレンスを開催しており、幅広い症例を経験することができます。また、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師が毎日集まり、コンサルト症例や血液培養陽性例、耐性菌検出例などについて検討しています。感染制御部や検査部細菌検査室とも連携し、垣根のない交流によって診療、研究、教育の協力体制を構築しています。



■ 主要症例名と実績数

- 敗血症
- 肺炎
- ウイルス性感染症 (新型コロナウイルス感染症、伝染性単核球症、HIV/AIDSなど)
- ダニ媒介感染症 (重症熱性血小板減少症候群、ツツガムシ病など)
- 日和見感染症 (ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス感染症など)
- マラリアなどの輸入感染症

■ 責任者からのメッセージ

消化器内科では数多くの学会認定医・指導医の下で提供される充実した指導体制が整っています。また、県下全域から紹介される救急症例に対する治療や消化管・肝・胆・膵悪性腫瘍に対する集学的治療も行っています。急性期・common diseaseから専門性の高い症例まで幅広い経験ができるという特徴があり、充実した内科専門研修が行えます。

■ 領域の紹介

消化管・肝・胆・膵の様々な良・悪性疾患に対する診療を行っています。検査に関して：上・下部消化管内視鏡検査、バルーン・カプセル内視鏡を用いた小腸検査、胆・膵領域の内視鏡検査により造影検査や超音波内視鏡を用いた検査、肝臓領域では腹部超音波検査、肝生検などを行っています。治療に関して：消化管では内視鏡的粘膜切除術(EMR)、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、光線力学療法(PDT)などを行っています。胆・膵領域ではERCP関連処置やEUS-FNA関連手技の超音波内視鏡ガイド下膿瘍ドレナージ術や瘻孔形成術などを行っています。肝臓領域では急性肝不全に対する集学的治療やウイルス性慢性肝疾患に対する抗ウイルス療法、自己免疫性肝疾患の診断と治療、食道静脈瘤に対する内視鏡的治療を行っています。その他、炎症性腸疾患の内科治療(薬物・内視鏡)や各種消化器癌に対する化学療法などを行っています。胆・膵疾患に対しては県外でも行われていることが少ない治療を経験することができます。また、当院は宮崎県肝疾患診療連携拠点病院の指定されており、肝疾患センターと協力して、県内の肝疾患対策の活動を行っています。

■ 週間行事・研修に関する行事

上級医師の指導の下、病棟業務および外来検査を中心に研修します。病棟では指導医(卒後10-20年目)の下、4-5人程度の入院患者を担当します。指導医が適宜サポートしますが、初期臨床研修医とは異なり、治療方針の決定など、入院患者の診療に主体的な役割を果たすことが求められます。EBMに基づいた

時間	月	火	水	木	金
AM	化学療法カンファレンス ・化学療法回診 外来診療 各種検査・処置	化学療法カンファレンス 外来診療 各種検査・処置	化学療法カンファレンス 外来診療 各種検査・処置	化学療法カンファレンス 外来診療 各種検査・処置	化学療法カンファレンス 各種検査・処置
PM	各種検査・処置	IBD・肝臓カンファレンス 全体カンファレンス 各種検査・処置	内視鏡治療カンファレンス 各種検査・処置	各種検査・処置	各種検査・処置

■ 取得可能な専門医資格および技能

当院は、日本消化器病学会や日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会などの消化器関連学会の指導・認定施設となっており、将来のサブスペシャリティを視野に並行研修を行うことも可能です。

先輩からのメッセージ

自分が消化器内科を志した理由は内科+手技という組み合わせにとっても興味を持ったからです。消化器内科に入局して常々思いますが、何かしらの手技に携わっている時間が多いいと思います。また、その手技もバリエーションに富んでおり消化管だけでなく、胆膵、肝臓と多岐にわたり、観察から治療まで行えます。それだけでなく腫瘍やIBDでは内



■ 教育達成目標

- 内科専門医として自ら腹部疾患に対する診断法と基本的な消化管・肝・胆・膵領域の診療(治療選択、患者管理)を身に着けることを目標とする
- 消化管・肝・胆・膵領域の専門施設に相談・紹介すべき疾患・症例・管理法について学ぶ。
- 消化管・肝・胆・膵領域の各種検査・治療の適応について学ぶ。



診断・治療法を学ぶために、受け持ち症例以外の症例についても、積極的に回診、カンファレンス等を利用して研修することが期待されます。さらに内視鏡検査、消化管造影検査などに参加し、消化器内科としての基本的な手技を習得することを目指します。